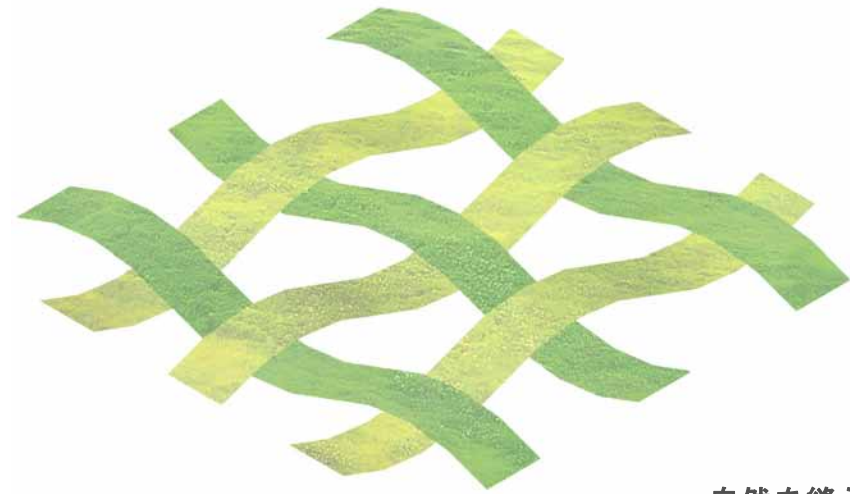
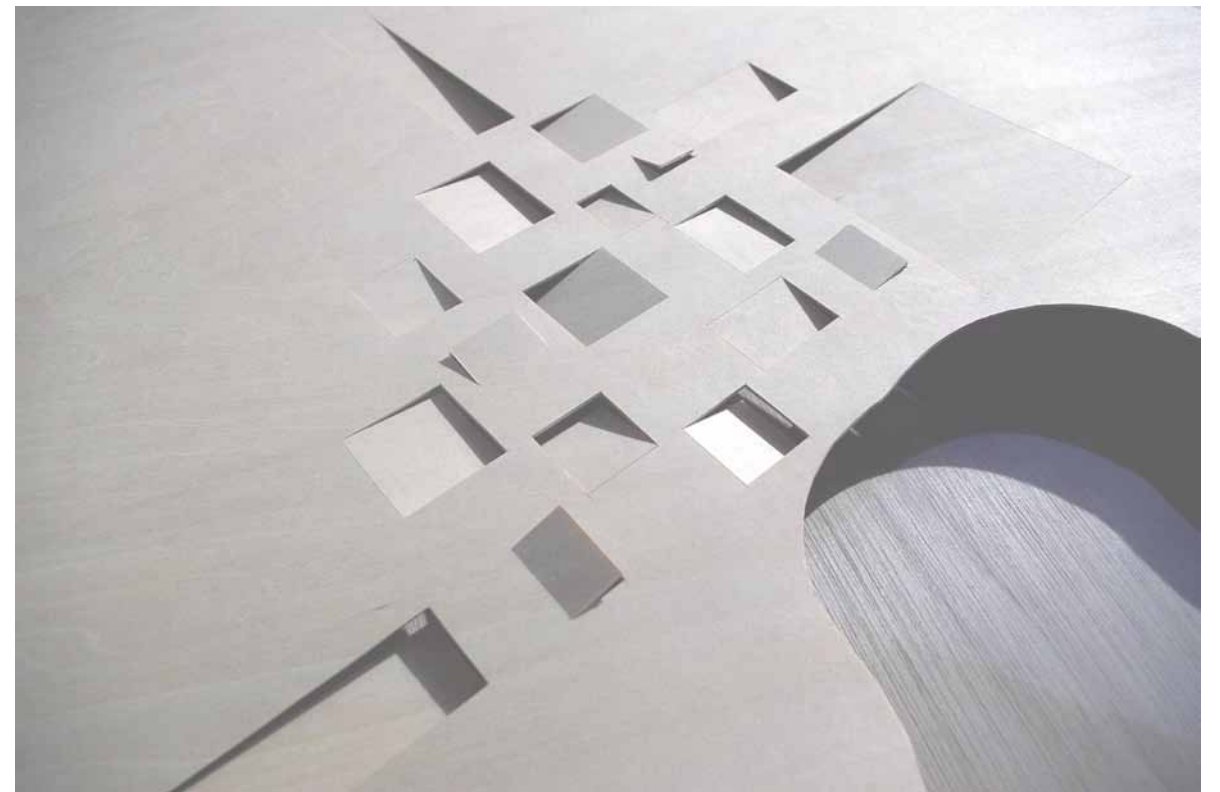
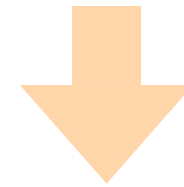


1

- 常に自然と接する



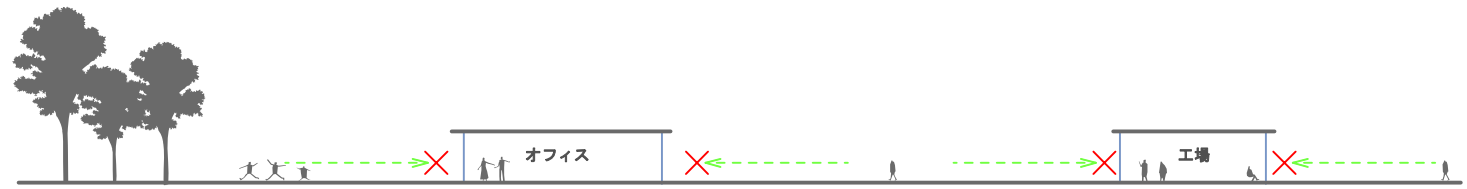
自然を縫うように建築をつくる



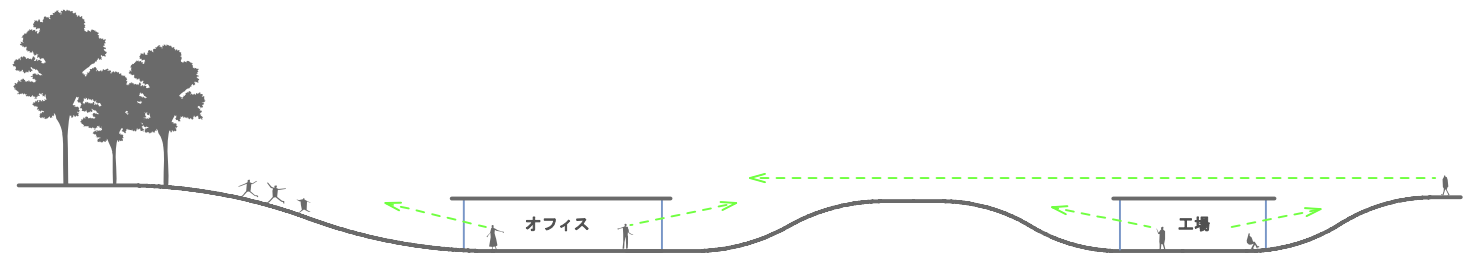
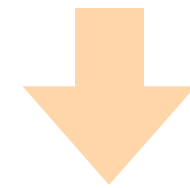
千鳥格子状とすることで最大限に外部との
つながりを持つことが可能となる



2. 自然環境と一体となる



地上に建築を建てると視線を遮ってしまい、周辺の景色が見えなくなってしまう。



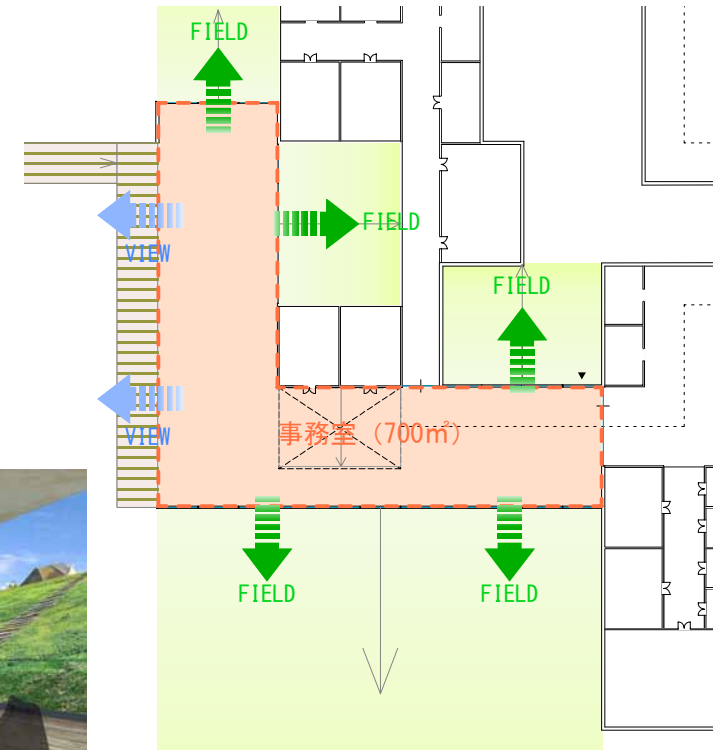
建築部分のみ一段下げることにより視線を遮るものはなくなる。
内部からは建築が視線に入ることなく、自然と空のみが見える。



フィールドでの「仮説 - 検証」を可能にするオフィス

3. 自然指向のライフスタイルを提案し実現する クリエイティブ オフィス

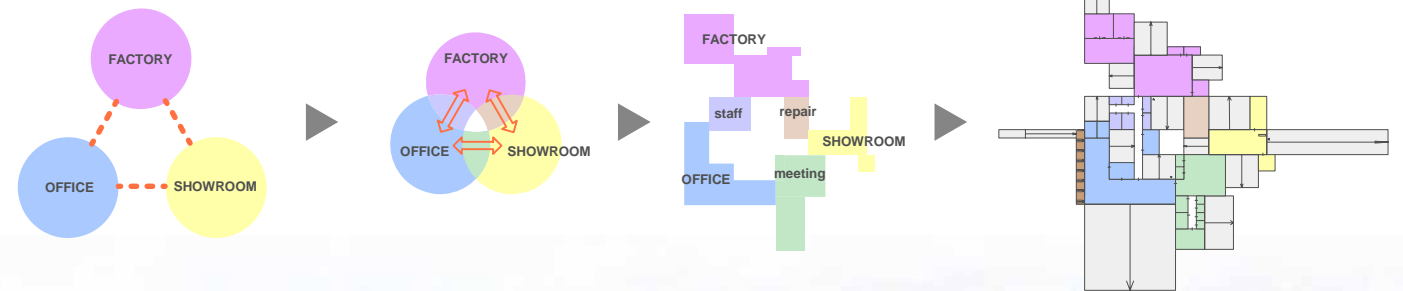
オフィスとフィールドが地続きで繋がっていることで、オフィスから直ぐに外に出られ、製品が実際に使用される場所で創造し検証することが可能となる。



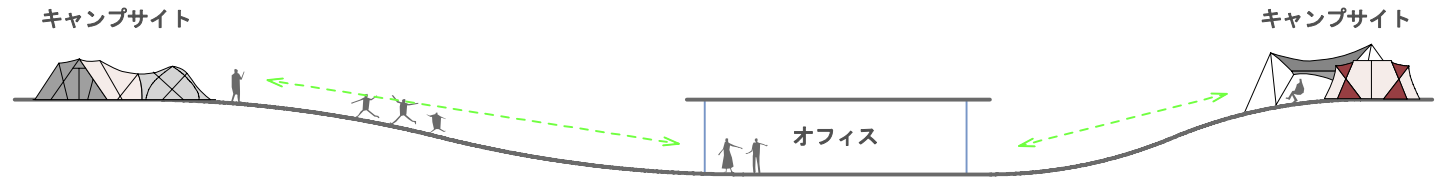
オフィス平面図

3つのゾーンが交わりあう

3つの主要機能のあいだに中間領域を設け、部門間のコミュニケーションを誘発する場所をつくる。

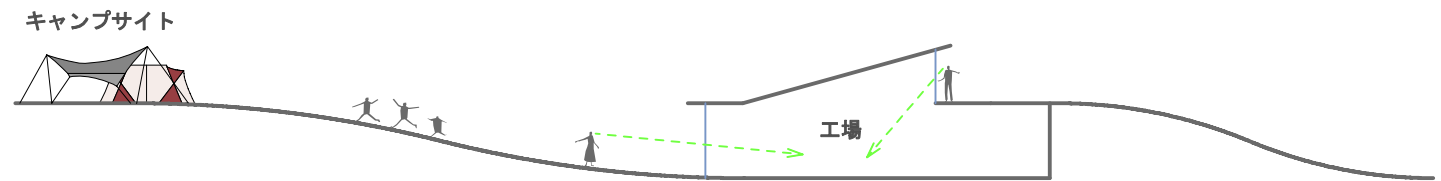


キャンプサイトと一続きの施設



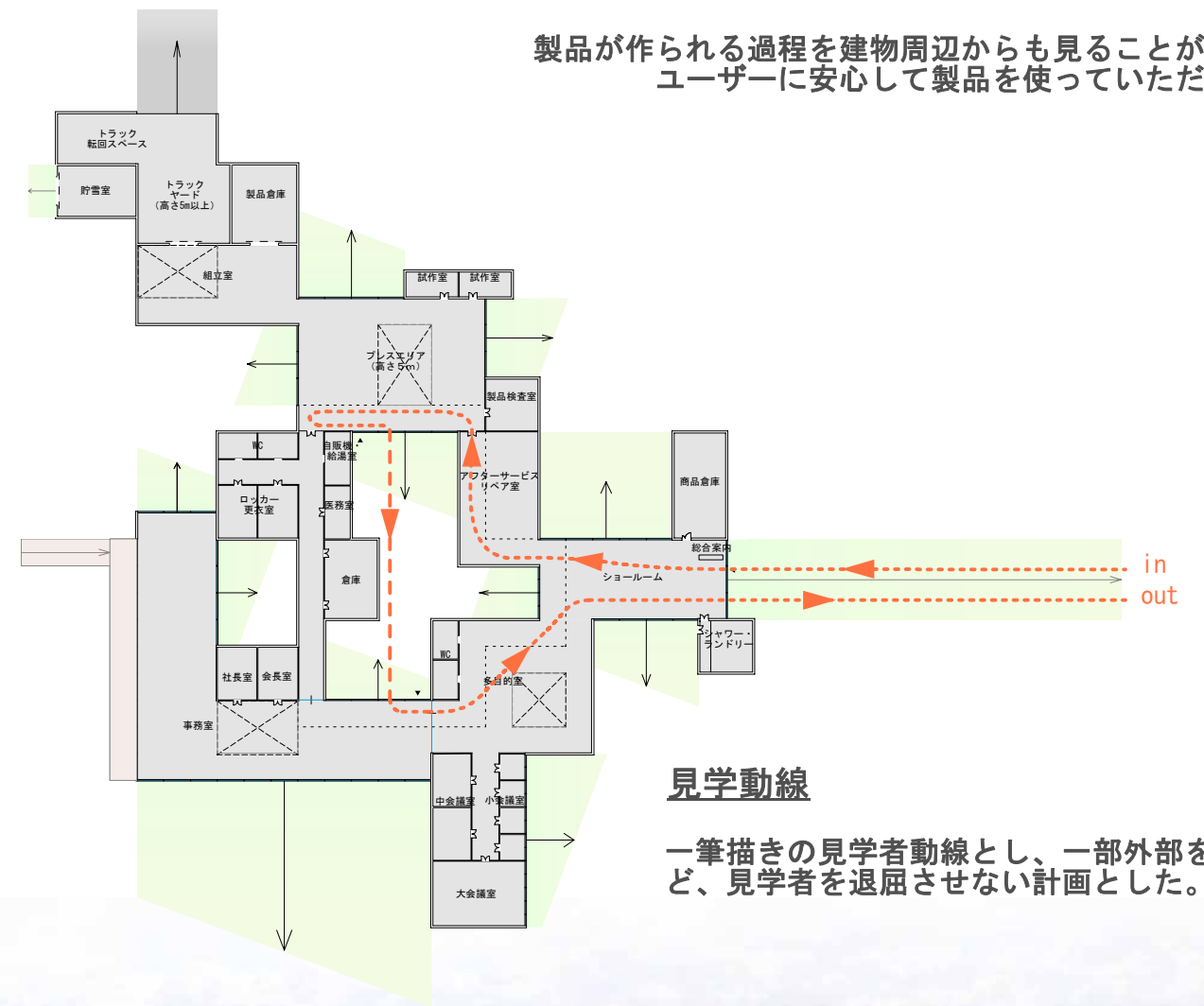
オフィスとキャンプサイトが直結していることで、ユーザーの声を聞きながら商品開発を進めることが可能となる。

ユーザーに開いた施設



製品が作られる過程を建物周辺からも見ることが出来、ユーザーに安心して製品を使っていただける。

4. ユーザーと共に創り出す

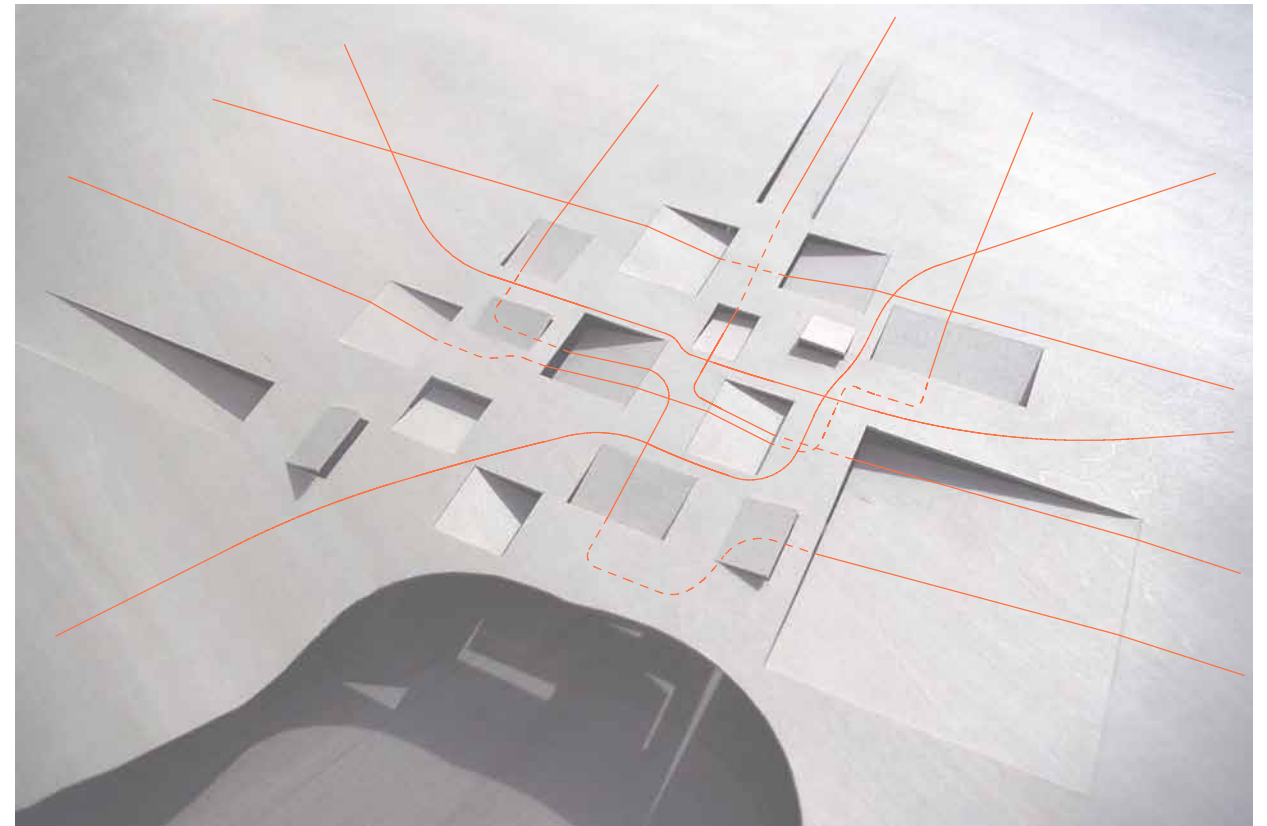


見学動線

一筆描きの見学者動線とし、一部外部を通るなど、見学者を退屈させない計画とした。

5. コミュニケーションを誘発し 新たな発想を生み出す動線計画

部屋から部屋への移動は、内部を通るだけでなく外部を通っても移動することが可能である。
そうすることで、社員とユーザーあるいは社員と社員の偶発的な出会いが生まれ、新たな発想を生み出すきっかけとなる。



部屋と部屋の間は社員もユーザーも通ることができるニュートラルな空間となり
コミュニケーションを誘発する場となる

